

砂と水を混ぜたスラリーを、底泥上に静かにまき出して覆砂

設計・解析技術

海洋工事技術

ICT

リニューアル技術

水域環境技術

河川・湖沼工事技術

お客様のメリット

- 薄層覆砂が可能のため、投入する覆砂材の総量を低減することができます。
- 通常の覆砂工法では不可能な、軟弱底泥層への適用が可能です。
- 浮泥のまき上げが少なく、水域環境への影響を必要最小限に抑えることができます。

技術の特徴

覆砂材のスラリー（砂と水）を特殊ノズルで送り覆砂

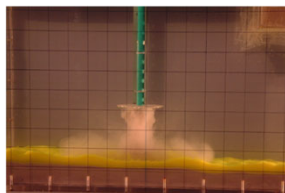
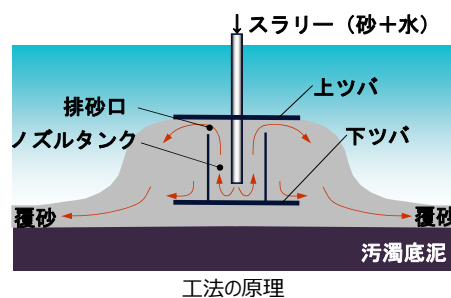
覆砂材は密度流状態で水底面に沿って広がり、底泥上を静かに覆砂するため、浮泥のまき上げが抑制されます。

薄層の覆砂

従来工法（バケット直投入型、トレミー管型）は、覆砂材を直接投入するため、30 ～ 50cmの層厚が限界でした。本工法は約10cmの薄層覆砂が可能です。

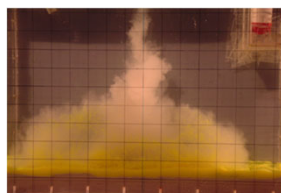
浮泥の発生を抑制

従来工法は覆砂材の投入時の拡散や覆砂時の底泥のまき上げにより濁りが発生します。本工法は特殊ノズルを使用した覆砂により、濁りはほとんど発生しません。



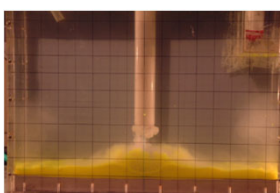
クリーン薄層覆砂工法

浮泥（黄色ビーズ）をまき上げず、その上を砂が広がっている



バケット直投入型覆砂工法

覆砂の投入により浮泥（黄色ビーズ）を多量にまき上げる



トレミー管型覆砂工法

覆砂の投入により浮泥（黄色ビーズ）を多量にまき上げる

従来工法
従来工法とのまき上がり状況の比較



LNG基地埋立工事

水域底泥の放射線量を低減

本工法を放射性物質で汚染された底泥に活用することで、廃棄物を排出せずに放射線量を低減することが可能となります。



環境省除染技術実証事業

実績・事例

LNG基地埋立工事

青森県十三湖試験工事

平成24年度環境省除染技術実証事業